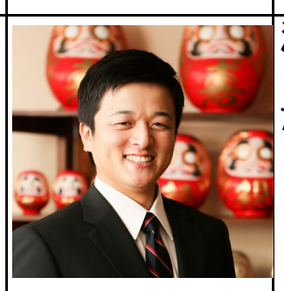
意見交換会　参加者一覧

生業の再生

No.	氏名		所属等	活動内容等	役割
1		半田　真仁（はんだ　しんじ）	・NPO法人　チームふくしま　理事長 ・採用と教育研究所　所長	広島県広島市出身。大学卒業後、東証一部上場専門商社に入社。その後、福島県庁雇用対策グループ相談員。特別職業相談員を経て2011年1月『採用と教育研究所』を設立する。2011年5月から、『NPO法人チームふくしま』として、ひまわりを全国各地でいわば「里親」として育て花を咲かせて採種し、その種を福島の地で「復興のシンボル」として咲かせることにより、全国と福島の絆を深める「福島ひまわり里親プロジェクト」を実施。精神保健福祉士。特定非営利活動法人日本キャリア開発協会認定CDA（キャリア・デベロップメント・アドバイザー）。	ファシリテーター
2		和田　智行（わだ　ともゆき）	㈱小高ワーカーズベース　代表取締役	南相馬市小高区生まれ。グロービス経営大学院経営学修士（MBA）。 ITベンチャー勤務を経て独立。2005年、ITベンチャーの役員就任と同時にUターンし、東京の2社の経営にリモートワークで参画するライフスタイルを確立。2011年、原発事故により自宅が警戒区域となり、家族とともに避難生活を送るも、2014年に小高区にて避難区域初のコワーキングスペース事業を開始。その後、食堂や仮設スーパー、ガラスアクセサリー工房、起業家の誘致育成など、小高区住民帰還の呼び水となる事業の創出に取り組む。2014年 AERA「日本を突破する100人」選出。	ミニプレゼン登壇者&意見交換参加者
3		和泉　亘（いずみ　わたる）	・なみえファーム代表 ・㈱浜のあきんど代表取締役	福島県白河市出身。震災当時は高校卒業し、建築の専門学校に入学したその後、東京で建築関係の仕事に就くが2015年に福島に帰省し2016年から避難者を支援するNPOで務める。NPOでの仕事をきっかけに浪江町の方々と出会い2017年の避難解除に合わせて浪江町に移住を決断、当初は地域コミュニティづくりを目的に活動してきたが地域の課題や移住者や若者が、この地域で暮らしていくための生業が必要だと感じ2020年に困ったごとを商いにつなげる「（株）浜のあきんど」や農業メインの「なみえファーム」の設立を行う。	ミニプレゼン登壇者&意見交換参加者
4		山根　辰洋（やまね　たつひろ）	・（一社）双葉郡地域観光研究協会	東京都八王子市出身の双葉町民。 大学卒業後、映像制作会社に勤めていたが、東日本大震災をきっかけに退職。2012年4月、東京にて復興事業を行う法人に所属し、企業CSRや自治体の事業形成に携わる。2013年8月からは福島県双葉町に委嘱職員として参画。秘書広報課に所属し、広報全般業務を担当。 2016年4月からは、県内法人に転職し、双葉町・大熊町の復興支援員事業責任者として、自治体との渉外、計画策定、労務・人材育成等を担当。 2016年に双葉町民と結婚し、山根姓(旧姓 小林)となる。2019年に独立、同年11月に一社双葉郡地域観光研究協会設立。2020年7月、復興庁新しい東北交流拡大モデル事業に採択され、外国人向け旅行商品の造成等によるビジネスモデルの構築に取り組んでいる。	意見交換参加者
5		島崎　延雄（しまざき　のぶお）	株式会社Jヴィレッジ 経営企画部 企画・広報G	郡山市出身。大学卒業後、IT関連専門商社に入社、その後、一貫してIT企業にて営業・マーケティングを担当。2017年9月に福島大学FURE相双地域支援サテライトに着任。地域復興支援担当として、被災12市町村の復興推進のサポート業務に従事。自治体職員の集まり、「ふたばの明日を考える会」をコーディネートし、そこから生まれ、首都圏企業を対象に研修ツアーを展開する「リボーンツアー」を立上げ・運営。2020年3月からは、主に企業研修事業の立上げ・運営のため、Jヴィレッジに入社。	意見交換参加者
6		渡邊　高章（わたなべ　たかあき）	白河だるま総本舗渡辺だるま店　14代	平成4年に福島県白河市に生まれる。 日本大学文理学部体育学科卒業後、カリフォルニア州立大学サンディエゴ校ビジネスコースに入学する。 同大学卒業後、アッシュ・ペ・フランス株式会社rooms事業部に入社し、平成28年10月から家業である白河だるまの制作、企画販売に従事する。 アパレルブランドとのコラボ商品の開発など、新規事業に挑戦し続けている。	意見交換参加者
7		浅野　雅己（あさの　まさみ）	浅野撚糸株式会社　代表取締役社長	岐阜県安八町出身。福島大学教育学部卒業後、1983年より岐阜県の小中学校教員を4年間務めた。1987年浅野撚糸株式会社に入社。1995年社長に就任。2018年より経済産業省「繊維の将来を考える会」委員。2019年経産省より福島復興プロジェクト参画依頼を受け、双葉町中野地区に撚糸工場及びタオルショップ開設決定。2022年秋完工。双葉町の帰還者の職場、そして交流人口活性化の一助となるよう計画推進中。	意見交換参加者